

## 置き畳用かすり柄表の染色、製法並びにペア織り、綾織り技法の開発

置き畳用かすり柄表の製法は、適当な部分を紐で堅く結び染色した5種類のイグサを目せき織りする方法である。ペア織り畳表の製法は、異なる色のイグサ2本を、同じ織り目の中に織り込む方法で、綾織り畳表は、1本のイグサが、経糸3本の幅で表、経糸1本で裏になるパターンを、1段ずつずらして製織する方法である。

農業研究センター い業研究所 加工研究室(担当者: 田中 伸昭、澤田 倫平)

## 研究のねらい

住まいの洋風化とともに畳の需要が減少している現在、フローリングに用いられる置き畳が目され始めている。そこで、普通畳表とは織り柄が異なるユニークな置き畳用畳表の製織方法を確立して、畳表消費拡大に寄与する。

## 研究成果

1. 絞り染めで染色したイグサを、畳表用普通織機で製織したかすり畳表の製法は、以下のとおりである。
  - (1) 選別長さ120~125cmのイグサ500g5束を、各々異なる場所10cm程度の幅を紐で縛る。
  - (2) 通常の方法で染色、乾燥を行うことにより、紐で縛った部分は染色されない。
  - (3) 使用する織機は、一般いぐさ生産者が所有する畳表用普通織機である。
  - (4) 製織方法は、糸の開きの間隔を狭くして小さい目の織り(目せき織り)とした。100本当たりの製織長は、4.6cmとして、同一かすり柄の製織幅を約5cmとする。また、同一列に2カ所にかすりを入れる場合は、かすりが重ならないイグサの組み合わせであることを確認する。
2. ペア織り畳表の製法は、本間柄表織機を用いて、異なる色のイグサ2本を、同じ織り目の中に織り込む方法である。異なる色のイグサを用いて製織したため、置き畳の両縁の色が非対称となる。
3. 綾織り畳表の製法は、本間柄表織機を用いて、1本のイグサが、経糸3本の幅で表、経糸1本の幅で裏になるパターンを、1段ずつずらしながら4パターンで製織する方法である。畳表のように山と谷がくっきりせず、滑らかな感触である。

## 普及上の留意点

1. かすり柄畳表において、同一列に1カ所にかすりを入れる場合には、製織するイグサの一方を、絞り染めイグサとして、もう一方を、全体を染めたイグサを使用する。この理由は、製織するイグサ両方を絞り染めイグサを用い、染色されていない部分を重ねた場合、他のかすりとは濃淡が異なるためである。
2. 絞り染めに当り、1束で複数カ所を紐で結束した場合、結束部分間の染色したい部分が十分に染色されないことがあるので、1カ所のみを紐で結束したイグサを染色して、かすりが重ならないような絞り染めイグサの組み合わせとする。



図1 絞り染めイグサ



図2 かすり畳表



図3 かすり柄置き畳



図4 ペア織り

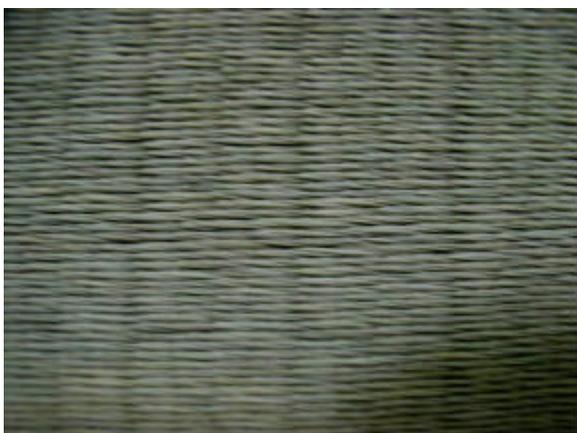


図5 綾織り

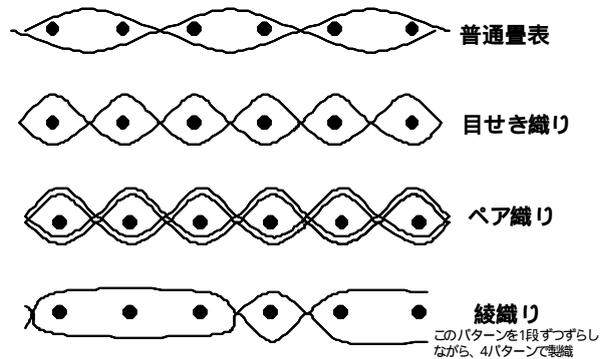


図6 各製品の畳表概念図(畳表の断面)  
(注)実線は、イグサを表し、◆は、経糸を表す。